

東京都独自の取組「チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）の設置」

令和7年4月
東京都教育庁

令和7年4月10日
教育課程企画特別部会
資料 1 - 3

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の概要

- 文部科学省が指定した学校において、不登校児童・生徒の実態に配慮し、年間授業時数の削減など柔軟な教育課程と教員による指導を実施

⇒ **全国58校のうち、都内公立9校（本校型1、分教室型8）**

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）のよさと課題

- ☆ 自分に合った学びを通して意欲を高める子供が増加
- ☆ 相談・指導を受けていない生徒の割合が減少
- ▲ 経費・土地・施設の確保が難しく、新規設置が進んでいない
- ▲ 自宅近くの学校で学びたい生徒のニーズへの対応
- ▲ 本校の生徒等と関わる機会が限定的

R6の施策

学びの多様化学校と同様の取組が校内でできるよう、都独自の「チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）」を設置

R6：チャレンジクラスの概要

- 公立中学校**10校の校内への設置支援**を行い、複数の教員を配置して、経費を補助
- 設置校の教育課程に基づき、不登校生徒の実態に応じたゆとりある生活時程の実現
- 校内施設の利用や通常学級との交流が容易

R6：チャレンジクラスの成果

- 出席率の上昇
 - 学習意欲や学力の向上
 - 通常の学級の生徒と共に、全校行事に参加
- 国には、定期的に成果を報告

R7：チャレンジクラスの設置

- R7は新規**4校を追加**し、R6の10校と合わせて14校の設置支援
- ※ 新規4校についても、既存10校で蓄積されたノウハウを生かす

R6チャレンジクラスの成果等を踏まえたR7の取組

設置校の教育課程ではチャレンジクラスに在籍する生徒の実態と合わず、指導と評価が難しいケースあり → **一人一人に応じた教育課程の編成が必要**

R7チャレンジクラス14校による研究の方向性（国：研究開発学校）

一人一人の生徒の学習進度や実態に応じた特別の教育課程編成の在り方を研究

個々の得意・不得意を生かした学習

情緒を安定させた生活

感情や行動のコントロール

参加できる活動の増加

自分の思いや考えを伝える

友達と関わる
ことができる

初めての人
でも話せる

チャレンジクラスにおける「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程の編成」の制度化の実現

チャレンジクラスの成果①「出席率の上昇」



校門での出迎え、オンラインの活用
→登校する生徒の増加

チャレンジクラスの成果②「学習意欲や学力の向上」



全教科T・Tでの授業実施
→自分のペースで進んで学習に取り組む姿

チャレンジクラスの成果③「全校行事への参加」



事前説明を行い、参加方法の選択
→全生徒が自分の決めた方法で運動会に参加

東京都独自の取組「チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）の設置」

令和7年4月
東京都教育庁

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の概要

- 文部科学省が指定した学校において、不登校児童・生徒の実態に配慮し、年間授業時数の削減など柔軟な教育課程と教員による指導を実施

⇒ **全国58校のうち、都内公立9校（本校型1、分教室型8）**

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）のよさと課題

- ☆ 自分に合った学びを通して意欲を高める子供が増加
- ☆ 相談・指導を受けていない生徒の割合が減少
- ▲ 経費・土地・施設の確保が難しく、新規設置が進んでいない
- ▲ 自宅近くの学校で学びたい生徒のニーズへの対応
- ▲ 本校の生徒等と関わる機会が限定的

R6の施策

学びの多様化学校と同様の取組が校内でできるよう、都独自の「チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）」を設置

R6：チャレンジクラスの概要

- 公立中学校**10校の校内への設置支援**を行い、複数の教員を配置して、経費を補助
- 設置校の教育課程に基づき、不登校生徒の実態に応じたゆとりある生活時程の実現
- 校内施設の利用や通常学級との交流が容易

R6：チャレンジクラスの成果

- 出席率の上昇
 - 学習意欲や学力の向上
 - 通常の学級の生徒と共に、全校行事に参加
- 国には、定期的に成果を報告**

R7：チャレンジクラスの設置

- R7は新規**4校を追加**し、R6の10校と合わせて14校の設置支援
- ※ 新規4校についても、既存10校で蓄積されたノウハウを生かす

R6チャレンジクラスの成果等を踏まえたR7の取組

設置校の教育課程ではチャレンジクラスに在籍する生徒の実態と合わず、指導と評価が難しいケースあり → **一人一人に応じた教育課程の編成が必要**

R7チャレンジクラス14校による研究の方向性（国：研究開発学校）

一人一人の生徒の学習進度や実態に応じた特別の教育課程編成の在り方を研究

個々の得意・不得意を生かした学習

情緒を安定させた生活

感情や行動のコントロール

参加できる活動の増加

自分の思いや考えを伝える

友達と関わる
ことができる

初めての人
でも話せる

チャレンジクラスにおける「多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程の編成」の制度化の実現

不登校の子供の 多様な学びのニーズ

得意な教科を
もっと勉強したい。

下学年の内容
から復習したい。

体験活動を
たくさんしたい。

オンラインで
授業や行事に
参加したい。

朝が苦手なので
ゆっくり登校したい。

静かな環境で
過ごしたい。

自由な服装で
生活したい。

教育支援センター
も利用したい。

単一の教育課程では限界あり

子供一人一人に 着目した教育課程 の編成

